地域の教育資源を活用し、社会教育施設の理解を図る

ウィンターフェス in ネイパルあしょろ

ネイパル足寄

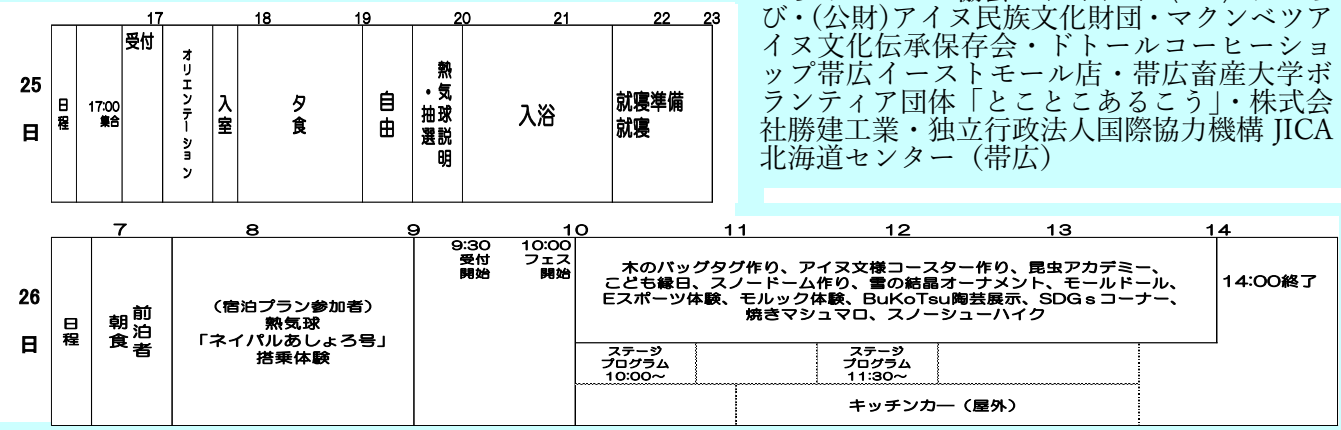
1　事業のねらい

施設の教育資源を活用した体験活動の提供をとおして、家庭や地域の教育力の向上を図るとともに、地域活動の発表の場を提供し社会教育施設への理解を図る。

2　事業の概要

■期日　R７.１.25(土)～26(日)
(熱気球搭乗体験者のみ 25 日から参加)
■対象　どなたでも
■人数　熱気球搭乗体験参加者 13 組　33 名
日帰りフェス参加者 50 組 171 名
合計 63 組 204 名
■場所　ネイパル足寄
■協力　北海道上士幌高等学校・十勝ｅスポーツ教育センター・星槎国際高等学校帯広学習センター・(一社)とかちイベンター協会・わくわく〈WS〉はぴらび・(公財)アイヌ民族文化財団・マクンベツアイヌ文化伝承保存会・ドトールコーヒーショップ帯広イーストモール店・帯広畜産大学ボランティア団体「とことこあるこう」・株式会社勝建工業・独立行政法人国際協力機構 JICA 北海道センター（帯広）

3　プログラム



4　ねらいを達成するための活動の工夫

■施設所有の熱気球の搭乗をプログラムに取り入れた。(当日は強風で中止)
■地域で活動する団体による発表の機会やｅスポーツ体験、アイヌ文化に触れるコースター作り、子ども縁日や創作ワークショップ、モルック体験、昆虫ブース、大学生ボランティアによる幼児向けブースなど、多世代が交流し多様な体験ができる機会を創出した。

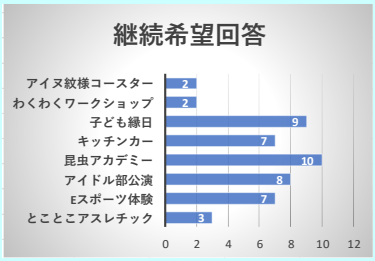
地域のエンターテイナー
・星槎高校アイドル部

親子でアイヌ文様コースターづくり

5　事業の評価

■事後アンケートからは「また参加したい」「機会が合えば参加したい」の肯定的回答が 100%と高かった。
■プログラムの継続希望を問う項目では、新しい取組が数多く選ばれており、それぞれの内容が充実していたことが伺え、これからの期待の高さも感じ取れる回答だった。

参加者アンケート　回答数 17 件
回答率 27%（17/63）



6　ねらいを踏まえた成果と課題

●施設の教育資源を活用し、参加者にとって新しい体験となる多様なプログラムを提供することができた。また地域で活躍する団体に出展の機会を提供し、日頃の活動成果を発表する場にできた。
●アイヌ文様のコースターづくりのブースは、用意されたキットのすべてが利用され、参加者に質の高い創作活動を提供するとともに、親子で楽しめる場となった。
○屋外体験は、天候に左右される事業であるため、荒天時プランを考える必要がある。

企画のポイント

施設の教育資源を活用したプログラムを提供し、地域の活力を取り入れた体験活動を実施する。